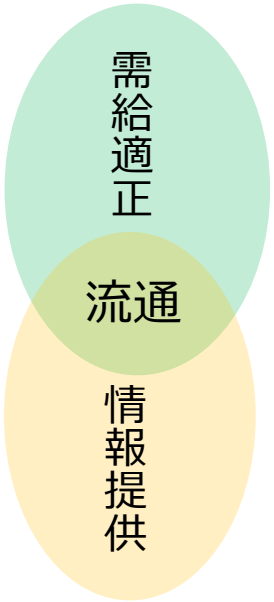
今後の方向性について

〈Ｒ５年度事業の実施から数年間の実証スケジュール（予定）〉

今後の方向性について

フードチェーン全体でフードロスの「削減から抑制へ」移行

（事業でのフードロス低減効果）



（効率化と情報化）

販売側の予測データから発注量補予測・調整を行う

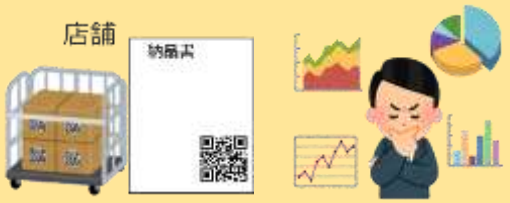
①需給に基づいた作付けや生産調整を行う事で過剰な店舗への食材流入防止効果
②消費行動変化による低減（消費変容の誘因によるフードロス減少）

（それぞれの福利）

1：生産者の営農状況改善
・労働の適正化と経費削減等での営農状況改善

2：消費者福利・食の付加価値向上（QR・ベジチェック等情報が豊かに提供される

3：流通から小売りでの効率化と労働強度削減（効率化・業務強度の低下等）



今後の方向性について

Well-beingの解釈の一つに、パーソナル⇒ソーシャルや⇒プラネタリー的にステージごとの福利があるとする、本事業は個々の福利から社会的複利、フードロス削減で地球的に貢献できるウェルビーイング創出事業である

デロイトトーマツWell-being財団
https://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/about-deloitte/articles/news-releases/nr20210601-3.html

総合的効果

フードロス削減による
環境負荷の低減へ

事業により生産から消費までが有機的につながりながら社会問題であるフードロスの削減まで流通の価値を高めていく事を目指す

将来的インパクト

『定量的情報』

『取組のリンク』

農業者への福利
付加価値の向上とロス削減による経費削減等で営農へ寄与する

流通・小売業者福利
システムによる効率・省力化で労務環境や精度に寄与する

消費者福利
産地情報・健康情報で安心して満足できる青果物購買に寄与する

それぞれの効果がフードチェーンを「バリューチェーンへ